

バラの根腐病および根頭がんしゅ病に対する複合抵抗性台木の育成

1 中核機関・研究総括者
岐阜大学 福井 博一

2 研究期間
2006～2008 年度（3 年間）

3 研究目的
切りバラ生産において、根頭がんしゅ病及び根腐病が難防除病害となっている。このため、これらの病害に対する抵抗性台木品種を育成し、省資材化技術を開発する

4 研究内容及び実施体制

- ① PEKcougel と 4 倍性 *Rosa multiflora* の交雑 F1 による根頭がんしゅ病および根腐病抵抗性検定（岐阜大学、岐阜県農業技術センター）
交雑による F1 個体の獲得と育成及び F1 の確認のための DNA マーカーを開発する。
- ② 抵抗性検定によって選抜された F1 の台木としての特性調査（岐阜大学、岐阜県農業技術センター）
抵抗性検定後の台木としての特性を栽培試験によって判定する。

5 目標とする成果

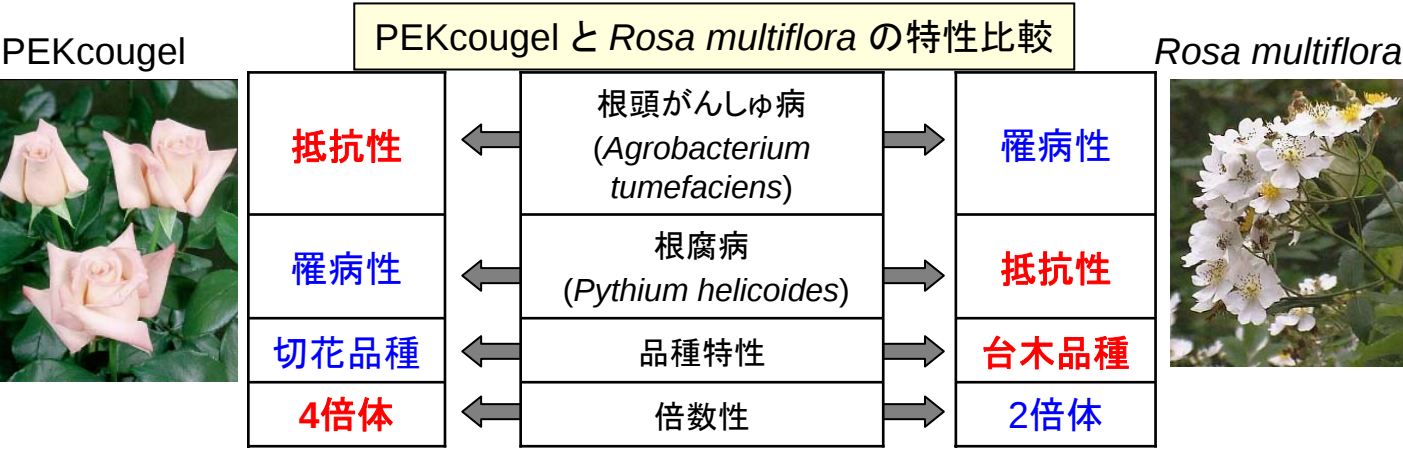
近年の環境問題や農薬問題を鑑み、農薬を使用しない根頭がんしゅ病および根腐病の対策法として最も有効と考えられている方法は抵抗性台木の育成である。本研究では、根頭がんしゅ病に抵抗性を持つ PEKcougel と根腐病抵抗性を持つ 4 倍性 *Rosa multiflora* を交配して得られる F1 について根頭がんしゅ病および根腐病抵抗性の検定を行い、その遺伝特性を明らかにするとともに、両病害に対する複合抵抗性台木品種の育成を目的とする。

主要花卉切花のバラにおける難防除土壌伝染性病害である根腐病と根頭がんしゅ病に対する複合抵抗性台木を育成することにより、両病害防除のための化学農薬の使用を軽減することが可能であり、環境保全型農業生産システムの推進を図ることができる。

バラの根腐病および根頭がんしゅ病に対する複合抵抗性台木の育成

これまでに得られた成果

- PEKcougelが根頭がんしゅ病抵抗性を持ち、その抵抗性発現機構を明らかにした
- *Rosa multiflora*が根腐病(*Pythium helicoides*)抵抗性を持ち、その抵抗性発現機構を明らかにした



研究内容

4倍性 *Rosa multiflora* (根腐病抵抗性)  PEKcougel (根頭がんしゅ病抵抗性)

交雑F1の獲得

交雑F1の確認と抵抗性検定

- 葉, シュートなどの形質調査
- *R. multiflora*とPEKcougelの特異的DNAマーカーの探索
- DNAマーカーを用いたF1の確認
- 根腐病および根頭がんしゅ病抵抗性の検定

台木としての特性検定

- 挿し木発根特性
- 主要切花品種との接木親和性
- 主要台木との切花収量性の比較
- 花色発現の安定性の確認

抵抗性台木として種苗登録

岐阜県内のバラ種苗生産会社配布
複合抵抗性台木の増殖

環境保全型農業の推進
殺菌剤の使用量減少

抵抗性台木を用いた
バラ苗の全国普及

輸入バラに対する対抗策

バラの品質向上・経営の安定